

キャラクター名 イーサン・ブラウン	プレイヤー名
----------------------	--------

シンドローム	ハヌマーン モルフェウス		ワークス	FHエージェントA	カヴァー	FHエージェント
	オプション		年齢	11歳 (小学5年生)	性別	不明
覚醒	渴望	衝動	嫌悪		初期侵食率	32 %
出自	双子	経験	大きな転機		邂逅	殺戮

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	27
肉体	2	1	0			3	行動値	7
感覚	3		0			3	(非装備時)	7
精神	1		0			1	戦闘移動	12
社会	2		0			2	全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	4		射撃	4		RC	1		交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	3	
運転:			芸術:			知識:			情報:	FH	1
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
コンバインナイフ	白兵	8r+18	1	5		アタックプログラム+アームズリンク+オーヴァードシュート
コンバインナイフ	射撃	8r+18	1	5		アタックプログラム+アームズリンク+オーヴァードシュート

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
ウェポンケース					
スタンダー					
マテリアル: 右手					
ロイス		最大財産P:	10	残り財産P:	1
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費	
強化兵	P	N			
妹: フリスク・ブラウン	P 幸福感	N 嫌悪			
幼馴染: 星宮春美	P 遺志	N 嫌悪			
魔導兵器(マジアウェポン)	P 有為	N 無関心			
化野 信楽	P 伝説の男	N 憧れを返して			
アイ	P 執着	N 偏愛			
御小柴 瑞希	P 憧憬	N 嫉妬			

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果: 非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果: コスト分のHPで復活								
コンセントレイト:	2		メジャー					
効果: 達成値+[Lv×2]。1ラウンド1回								
カスタマイズ	3		メジャー					
効果: ダイス+LV個								
剣聖の手	1		メジャー					
効果: 判定ダイスを一つ10にする。1シナリオ[Lv+1]回使用可能								
ペネトレイト	1		メジャー					
効果: 装甲無視。ダイス-1個								
軽功	★							
効果:								
壁抜け	★							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【設定】
マテリアル: 右手はマテリアルを所持しているのではなく、匹敵する能力を持っているという解釈。
今回の場合、右手は一撃必殺の攻撃を放てるという解釈にしている
コンバインナイフの扱いを極め抜いた戦闘要員

妹のフリスクと一緒に両親に捨てられ、拾ってくれた夫婦の子供として育った。
フリスク幼馴染の星宮春美と平和な日常を過ごし、裏の世界とは無縁で生きてきた
しかし一年前、元々体が弱かった春美は病で亡くなった

春美が死んだあとイーサンはFHの訓練施設へと向かった。
強さを求めていたわけではない。叶えたい願いがあつたわけでもない。ただ、退屈な日常を送るよりはマシだと思っただけだ
FHの訓練施設では過酷な訓練が行われていた。非オーヴァードを覚醒させる目的もあるため、訓練生が死ぬなんてこともザラである。イーサンはその訓練を非オーヴァードで乗り切った。
訓練終了の最後の課題としてFHのエリートエージェントと戦うこととなった。FHのセルリーダーも多く見に来ていたためアピールの場だと訓練生は思っていた。それは間違いないが、甘い考えだったと知らずに……。エリートエージェントと訓練生の最初の一人が戦いを始めた。自信に満ち溢れた様子で訓練生は使いなれた武器を用いてエリートエージェントに向かい、その首は宙を舞った。辺りが鮮血で染まり、ゴトンと跳ねられた首が転がるのを見て、他の訓練生は「これは訓練ではなく、殺し合いだ」ということを理解した。発狂するもの、恐怖で腰をぬかすもの、自暴自棄となりエリートエージェントに挑むもの。10人ほどいた訓練生は5分も経たない間にイーサン一人となった。エリートエージェントはイーサンを標的に定め殺そうと向かってくる。それを見ながらイーサンが抱いたのは恐怖でも仲間を殺された怒りでもなく……。『どうすればこいつを殺せるだろうか』という純粋な殺意だった。「こいつを殺すには力が足りない」「足りなければかき集める」「あいつを殺すための力を！」殺戮への渴望、それがイーサンをオーヴァードへと覚醒させる鍵だった。覚醒したイーサンは手に持ったナイフでエリートエージェントの首を跳ね飛ばす。一瞬のたった一撃のことだった。それを見ていたセルリーダーたちは驚愕し、アルケミストの精鋭部隊の部隊長の目に留まったのだ。それからアルケミストの部隊長にアルケミストへ勧誘され、戦闘要員として実績を積み重ねている。